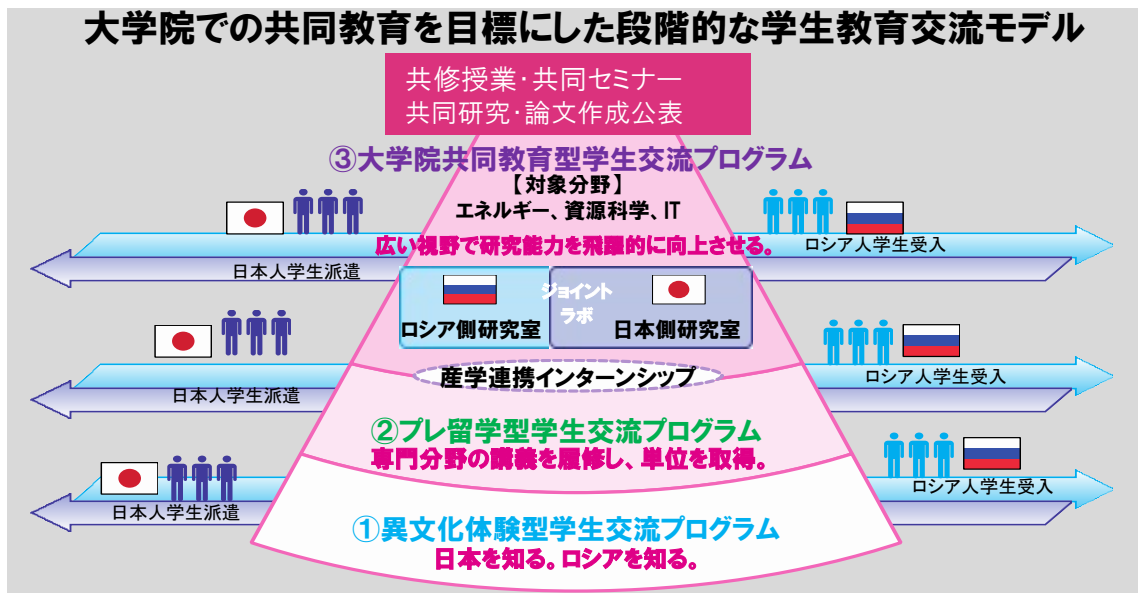


1. 構想の概要

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))
日露間における新価値創造人材の育成

【構想の概要】

本学と関係が深いロシアの大学および科学アカデミーを交流組織として、①相互の異文化を理解する短期学生交流、②質保証された単位取得を伴うプレ留学交流、③両国の高いレベルの共同研究を基盤とした大学院生の教育研究交流を実施する。さらに産学連携によりインターンシップを実施し、日露間の交流の礎であり、懸け橋となる素養を養う。単位を伴う②と③の交流プログラムでは、日露双方の大学・機関から関係部局長、関連部局の教員等で組織する「大学間共同教育委員会(仮称)」を設置し、共同教育の企画・運営と単位互換可能な質の保証を行い、ダブル・ディグリー及びジョイント・ディグリー授与の検討を行う。これらの交流プログラム実施のため、これまで設置しているロシア代表事務所に加え、ウラジオストクに同極東支部を設置し、派遣及び受入学生の支援を行う。さらに、③の教育交流拡大のため先端研究ジョイントセミナーを開催する。



【交流プログラムの概要】

「グローバルな視点から日露両国間交流の意義と重要性を深く理解し、全球的観点で日露間の新たな価値を創造できる指導的人材を育成する」という目標を達成するために、モスクワ大学、ノボシビルスク大学+ロシア科学アカデミー(RAS)シベリア支部、極東連邦大学+RAS極東支部を交流組織として、①相互の異文化を理解する短期学生交流(学部1・2年生)、②質保証された単位取得を伴うプレ留学交流(学部3・4年生・博士前期課程学生)、③日露交流機関の高度な共同研究を基盤とした教育研究交流(大学院生)の段階的的学生交流プログラムを日露両国の学生を対象として双方向で実施する。

【本構想で養成する人材像】

グローバルな視点から日露両国間交流の意義と重要性を深く理解し、全球的観点で日露間の新たな価値を創造できる指導的人材。日露間の教育・研究交流、文化交流、産業交流の懸け橋になれる人材。日露間の科学イノベーションを創出することができる高度な人材。

【本構想の特徴】

ヨーロッパ・ロシア地区、シベリア地区、極東地区の最高教育研究機関を対象とし、東北大学+ロシアの大学+科学アカデミーが一体となって学部から大学院に至る学生交流に取り組み、日露両国の特徴を生かした三位一体高等教育交流モデルを構築する。広大なロシア国内に、地理的にもバランスのとれた3拠点を有するという、日本はもちろん世界にも稀なロシア教育研究拠点を形成する。

【交流予定人数】

	H26	H27	H28	H29	H30
学生の派遣	10	23	23	23	23
学生の受入	10	27	27	27	27

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

日露間における新価値創造人材の育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈共修授業の様子〉

本年度は相互理解を深めるための異文化体験型学生交流プログラムを新たに開発・実施するとともに、単位認定を伴う交換留学プログラムでもロシア人学生の受入れを行った。大学院レベルの共同教育プログラム構築については、先端的研究交流を基盤とした共同教育への発展を進めるため、本事業において交流推進分野と位置付けた複数の研究分野に関するロシア側連携大学等とのジョイントセミナーを実施した。

また、共同教育プログラムの制度設計や質保証を行う共同教育委員会の設置を目指し、各研究分野において実行委員会設置の調整を図った。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

異文化体験型交流プログラムとして、本学学部生10名を2月13日から2月20日までノボシビルスク大学に派遣した。

○ 外国人留学生の受入

異文化体験型交流プログラムとして、ノボシビルスク大学学部生10名を1月30日から2月6日まで受け入れた。また、プレ留学型学生プログラムとして、モスクワ大学の学部生1名を本学文系プログラムであるIPLA (International Program in Liberal Arts)で、モスクワ大学の大学院生1名を自然科学系プログラムであるCOLABS(Cooperative Laboratory Study Program)で受け入れ中。

	H26	
	計画	実績
学生の派遣	10	10
学生の受入	10	12

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・成績管理、出口管理に関し、これまで実施してきた厳格なシステムを適用
- ・異文化体験型交流プログラム参加学生に対する事前講習、事後講習の実施
- ・大学間共同教育委員会(仮称)の設置調整
- ・学生交流プログラムの企画承認、授業等単位互換の合意、共同研究を通じた共同教育の企画承認、共同教育コース認定と認証、学位論文の質保証など、共同教育に関する事項に関する協議を行う。



〈異文化体験型交流プログラム派遣プログラム修了証書授与〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【受入】

- ・外国人留学生・研究者への情報提供及び受入れ・生活支援等を一元的・包括的に行う「国際交流サポートオフィス」の設置
- ・短期留学に関しても特別訪問研修生として受入れ、大学図書館、学内LANなど大学施設の利用環境を確保

【派遣】

- ・派遣前:ロシア交流推進室、グローバルラーニングセンターにおける情報提供およびサポート
- ・派遣中:海外事務所における情報提供、相談等サポート(現地スタッフの配置)

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

- ・本事業での対象校であるモスクワ大学がロシア学長連盟の会長校であるため、モスクワ大学に本事業での取組をロシアの他大学に波及させることを促すとともに、ロシア学長連盟に加盟している大学の学生を中心に本事業への参加を推進
- ・ロシア交流推進室のウェブサイトにおいて事業の成果を多言語で発信

■ 特記すべき事項等

- ・異文化体験型学生交流プログラム参加学生に実施したアンケート調査によると、日露の学生ともに相手国に対する知見を広め、興味関心を深化させることができた。SNS等による交流は帰国後も継続して行われている。日露ともに今回の短期留学を機に、より長期の留学プログラムへの参加を決める学生がいたことは本プログラムの成果を裏付けるものである。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

日露間における新価値創造人材の育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈共修授業:モスクワ大学にて〉

昨年度ノボシビルスクで実施した異文化体験型学生交流プログラムの派遣事業を本年度はモスクワ大学で実施した。受入事業では、サマープログラムの他に専門科目プログラム(工学、心理学)も開発・実施した。高度な共同研究をベースにした教育研究型交流では、出前講座、オンラインゼミ、院生の短期派遣による共同教育を実施した。日露の教員と学生が参加し、モスクワ、ノボシビルスク、ウラジオストク、仙台を会場として開催された先端研究ジョイントセミナーは11回を数えた。モスクワ大学と共同開発中であるジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリーシステムは来年度に承認され、運用開始の見込みである。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

異文化体験型交流プログラムとして、本学学部生14名を3月9日～23日までモスクワ大学に派遣。

その他、資源科学分野のジョイントラボへ院生2名を短期派遣。

(試行派遣のため派遣実績としては計上せず)

○ 外国人留学生の受入

異文化体験型交流プログラムとしてモスクワ大学から10名、ノボシビルスク大学から6名、極東連邦大学から5名を受入。

単位取得を伴う留学型交流プログラムではモスクワ大学からIPLA(International Program in Liberal Arts)で3名、COLABS (Cooperative Laboratory Study Program)で1名、極東連邦大学から1名を学部理系英語プログラムのJYPE(Junior Year Program in English)で受入。その他、エネルギー工学分野ジョイントラボで院生7名を短期受入。(試行受入のため受入実績としては計上せず)

	H27	
	計画	実績
学生の派遣	23	14
学生の受入	27	26

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 異文化体験交流プログラムの単位化
プログラムの更なる質向上のため、本学全学教育科目等規程の規定に基づき海外研修として単位化するための調整。
- 大学間共同教育委員会の設置
学生交流プログラムの企画、授業等单位互換の合意、共同研究を通じた共同教育の企画を担う大学間共同教育委員会実行委員による ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリーのシステム開発等の実施。



〈ロシア語研修の様子〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 国際交流サポートオフィスの設置
留学生への情報提供および受入・生活支援等を一元的・包括的に行う体制を確立。
- 東北大学ロシア代表事務所の整備
モスクワ大学内に設置済みの本学ロシア代表事務所拡充計画に関する、モスクワ大学との協議。(サドーヴニチ学長名によるMOU締結済み)
ロシア代表事務所極東支部設置に関する、極東連邦大学との協議。(イヴァネツ学長了承済み)



〈工学系ラボツアー〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

- ロシア学長連盟会長校であるモスクワ大学を介した広報活動
本事業での取組をロシアの他大学に波及させることを促すとともに、ロシア学長連盟に加盟している大学の学生を中心に本事業への参加を検討。
- 東北大学ロシア交流推進室ウェブサイトにおける広報活動
本事業での取組および成果、プログラム参加学生の報告レポートなどを多言語(日・露・英)で発信。
- 共同研究をベースとした共同教育および先端研究ジョイントセミナーによる国際ネットワークの構築と拡大
ロシアの大学と科学研究所を巻き込んだアカデミーネットワークの形成。教員が取り組んでいる日露共同研究へ学生を積極的に参加させることで、学生が早い段階から多国間の国際的アカデミーネットワークを構築できる環境および国際的な活動の場を提供。

■ 特記すべき事項等

モスクワ大学との共同教育委員会実行委員で共同開発してきたジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリーシステムは、心理学分野が先行して次年度にも承認され、運用開始となる見込みである。また、極東連邦大学内に本学ロシア代表事務所極東支部を新規設置する計画も、平成27年度までには同大学学長の承認が得られているため、次年度には開設となる見通しである。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【日露間における新価値創造人材の育成】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈超短期派遣修了式:ノボシビルスク大学〉

段階的學生交流プログラムの全段階において、学生の派遣・受入を実施

- ・第1段階交流である異文化体験型学生プログラムの派遣事業は、一昨年同様ノボシビルスク国立大学の協力のもと実施。
- ・ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラム(JSD)に関する協定をモスクワ大学心理学部と本学文学研究科間で締結。
- ・ジョイントラボにおける共同教育の実施。
- ・ロシア3地域(モスクワ・ノボシビルスク・ウラジオストク)および本学における学生参加型ジョイントセミナーの開催。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・第1段階交流の異文化体験型交流プログラムにおいて学部生15名をノボシビルスク国立大学に派遣。
- ・第2段階交流の単位取得を伴うプレ留学プログラムにおいて学部生学生1名をノボシビルスク国立大学に派遣。
- ・第3段階交流の大学院共同教育型交流プログラムで理学研究科修士学生1名をノボシビルスク国立大学に派遣。

○ 外国人留学生の受入

- ・異文化体験型交流プログラムとしてモスクワ大学から10名、ノボシビルスク大学から5名、極東連邦大学から1名を受入。
- ・プレ留学型交流プログラムではモスクワ大学から文学部付属型プログラム(Siebold Program)およびIPLA(International Program in Liberal Arts)で合計6名受入、極東連邦大学からJYPE(Junior Year Program in English)で1名受入。
- ・大学院共同教育型交流プログラムとして本学材料学分野ジョイントラボにノボシビルスク国立大学の大学院生を3名受入。



〈本学設置のジョイントラボでの学生指導:極東連邦大学と〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・異文化体験型学生派遣プログラムの単位化
東北大学全学教育科目等規程に則り、全学教育科目・展開科目・総合科学・カレントトピックス科目として修了者には2単位を付す体制を整えた。
- ・ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラムの承認
モスクワ大学との協定締結により、対象学部と大学院生の共同教育を開始する体制を整えた。
- ・大学間共同教育委員会の設置
ノボシビルスク国立大学地質学・地球物理学部と本学理学研究科の合意の下、共同教育型交流プログラムとして単位取得を伴う学生派遣を実施した。



〈JSD協定締結:モスクワ大学〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・国際交流サポートオフィス、ユニバーシティ・ハウス、学生ボランティア等の組織・運営
留学生への情報提供および受入・生活支援を一元的・包括的に行うサポートオフィス、日本人学生との共同生活により日常から異文化交流、相互理解を培う環境を提供している。
- ・ロシア交流推進室、在ロシア代表事務所の運営
日本人の派遣学生が渡航前、渡航時、帰国後に相談可能な窓口として機能している。語学を含め、ロシアに関する情報提供、危機管理講習なども実施している。

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	23人	17人
学生の受入	27人	26人

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

- ・ホームページでの広報
留学プログラムに関する情報や既に実施された交流の成果報告は、本学ホームページやロシア交流推進室のホームページから多言語で発信している。
- ・連携大学のホームページでの広報
留学プログラムの募集情報や既に実施された交流の成果報告は、連携するロシア側大学のホームページで発信されている。
- ・異文化体験型交流プログラムの研修報告会
本学学生、教員、学外者に向けた成果報告会を開催することでプログラムの意義と重要性を共有した。



〈モスクワ大学心理学部短期留学修了式:文学研究科〉

■ 特記すべき事項等

- ・本年度より異文化体験型学生派遣プログラムの単位化を開始。
- ・平成28年10月にモスクワ大学心理学部と本学文学研究科間で締結されたジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラム(JSD)に関する協定に基づき、当該プログラムでの修士学生受入(平成29年度)が決定。
- ・ノボシビルスク大学・ロシア科学アカデミーシベリア支部地質学・鉱物学研究所・東北大学の三位一体型共同教育の実施。
- ・外部評価委員会を開催し、これまでの成果と今後の課題について議論。

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

日露間における新価値創造人材の育成

■ 交流プログラムの実施状況



(材料科学ジョイントセミナー)
NSUおよびSB RASとの共催

段階的學生交流プログラムの全段階において、学生の派遣・受入を実施

- ・異文化体験型学生プログラムの派遣事業を一昨年同様モスクワ国立大学(MSU)の協力のもとで実施した。
- ・ノボシビルスク国立大学(NSU)・ロシア科学アカデミーシベリア支部(SB RAS)と双方向に大学院生を派遣し、共同研究を基盤とした共同教育を実施した。
- ・連携地域(モスクワ・ノボシビルスク・ウラジオストク)および本学において重点分野に関する学生参加型ジョイントセミナーを開催した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・第1段階交流の異文化体験型交流プログラムにおいて学部生15名をモスクワ国立大学に派遣。この他、ノボシビルスク国立大学のサマースクールに修士学生を3名派遣している。
- ・第2段階交流の単位取得を伴うプレ留学プログラムにおいて修士学生1名をノボシビルスク国立大学に派遣。
- ・第3段階交流の大学院共同教育型プログラムで工学研究科博士課程学生1名をノボシビルスク国立大学に派遣。

○ 外国人学生の受入

- ・異文化体験型交流プログラムとしてモスクワ国立大学から9名、ノボシビルスク国立大学から3名を受入。
- ・プレ留学型交流プログラムではモスクワ国立大学からCOLABS (Cooperative Laboratory Study Program)で1名受入。
- ・大学院共同教育型プログラムとして本学材料学分野ジョイントラボおよび日本・アジア学分野のジョイントラボにノボシビルスク国立大学の大学院生をそれぞれ1名ずつ受入。



(左: アニシモフ学長 右: 丸田教授)
共同研究および教育での功績が評価され極東連邦大学名誉博士号授与

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・国際共同大学院プログラム
海外有力大学との連携のもと実施されている国際共同大学院プログラムのうち、環境・地球科学分野に特化したプログラムに関しては、ノボシビルスク国立大学を連携校として協働することがプログラム運営委員会によって承認された。また、現在開発中の人文社会系プログラムにおいてもロシアの大学と連携する方向で検討が進められている。



(異文化体験型交流プログラム)
MSUジャーナリスト学部との共修授業

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・国際交流サポートオフィス、ユニバーシティ・ハウス、学生ボランティア等の組織・運営
留学生への情報提供および受入・生活支援を一元的・包括的に行うサポートオフィス、日本人学生との共同生活により日常から異文化交流、相互理解を培う環境を提供している。
- ・留学生用ガイドブックの作成
中・長期留学生のため、日本での生活に関するガイドブック(ロシア語版)を作成中。
- ・ロシア交流推進室の運営
日本人の派遣学生が渡航前、渡航時、帰国後に相談可能な窓口として機能している。語学を含め、ロシアに関する情報提供、危機管理講習なども実施している。
- ・東北大学ロシア代表事務所の運営
留学プログラム参加学生への情報提供など現地における学生支援、本学入学希望者の入試試験会場として機能している。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	23人	20人
学生の受入	27人	15人

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・ホームページでの広報
留学プログラムに関する情報、実施済みイベントの成果報告ならびにプログラム参加者たちの経験談は、本学ホームページやロシア交流推進室のホームページにおいて多言語発信されている。
- ・連携大学のホームページでの広報
留学プログラムの募集情報や実施済みイベントの成果報告は、連携するロシア側大学が運営するホームページにおいて発信されている。
- ・異文化体験型交流プログラムの研修報告会
本学学生、教員、学外者に向けた成果報告会を開催することでプログラムの意義と重要性を共有した。
- ・ジョイントセミナーの成果報告
連携機関と共同開催されたジョイントセミナーは、コンソーシアムのHPや学術雑誌に掲載されている。



(日露学生フォーラム)
第3回東方経済フォーラムに合わせ
ウラジオストクで開催

■ 特記すべき事項等

- ・ノボシビルスク国立大学・ロシア科学アカデミーシベリア支部東北大学による三位一体型共同教育が材料科学分野とアジア研究分野において実施された。
- ・第3回東方経済フォーラムの開催に合わせ、本学、北海道大学、モスクワ国立大学、極東連邦大学共催で日露学生フォーラムをウラジオストクにおいて開催した(9月)。
- ・研究協力および共同研究を基盤とした共同教育推進を目的とし、本学複数部局においてモスクワ国立大学物理学部、情報数理学部と部局間協定締結に向けた準備が進められている。

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【日露間における新価値創造人材の育成】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



(共修授業:モスクワ国立大学にて)

段階的學生交流プログラムの全段階において學生交流を実施した。また、共同研究および大学院共同教育型プログラムのベースとなるジョイントラボの活動として、共同研究者による學生への特別講義や學生参加型ジョイントセミナーを開催した。後者は博士課程學生が早い段階で国際的なアカデミックネットワークを構築する上で重要な役割を果たした。學生が筆頭著者となる共著論文が国際ジャーナルに採択されるなどの成果も得られた。

交流プログラムにおける學生のモビリティ

○ 日本人學生の派遣

- 第1段階交流の異文化体験型交流プログラムにおいて学部生15名をモスクワ国立大学に派遣。この他、極東連邦大学のサマースクールに学部學生を1名派遣。
- 第2段階交流の単位取得を伴うブレ留学プログラムにおいて学部學生と修士學生をモスクワ国立大学及び極東連邦大学にそれぞれ1名ずつ派遣。
- 第3段階交流の大学院共同教育型プログラムにおいて修士學生を1名ノボシビルスク国立大学に派遣。



(異文化体験型交流プログラム)

○ 外国人學生の受入

- 第1段階交流の異文化体験型交流プログラムとしてモスクワ国立大学から11名、ノボシビルスク国立大学から5名を受入。
- 第2段階交流のブレ留学型交流プログラムでは昨年度から引き続きモスクワ国立大学の學生1名が在籍。(本年度の実績にはカウントせず)
- 第3段階交流の大学院共同教育型プログラムとしてモスクワ国立大学化学部の學生を1名受入れ。また、ジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラムにてモスクワ国立大学心理学部の學生を1名受入。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 心理学分野においてジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリープログラムによる學生受入れを開始した。
- モスクワ国立大学との大学間学術交流協定は既に締結済みであるが、心理学以外の分野でスピード感を持って共同教育および共同研究に取り組むため、同大学理学部とIT、エネルギー工学、材料科学に特化した部局間協定を締結した。

	H30	
	計画	実績
學生の派遣	23	18
學生の受入	27	18

■ 外国人學生の受入及び日本人學生の派遣のための環境整備

- 国際交流サポート室、學生ボランティア等の組織・運営**
留學生への情報提供および受入・生活支援を一元的・包括的に行うサポートオフィスを運営している。チューター制度や學生ボランティアによる支援も実施しており、ロシア留学経験者が多く活動している。
- 留學生用ガイドブックの活用**
留学が決まったロシア人學生のため、公共交通機関の利用方法その他、日本で生活する上で必要な情報をまとめたガイドブック(ロシア語版)を作成し、渡航前の學生に対しメールで送付している。
- ロシア交流推進室の運営**
日露の學生が渡航前、渡航時、帰国後に相談可能な窓口として機能している。日本人學生に対しては、危機管理講習やロシアに関する情報提供、必要の際にはロシア語学習の支援も行っている。
- 東北大学ロシア代表事務所の運営**
留学プログラム参加予定者への予備情報の提供、現地における支援を行うほか、本学入学希望者の入試会場等として活用することも可能な体制になっている。



(材料科学分野ジョイントセミナー)

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ホームページでの広報**
本学ホームページやロシア交流推進室のホームページにおいて留学プログラムに関する情報や実施済みイベントの成果報告ならびにプログラム参加者たちの経験談を多言語発信している。
- 異文化体験型交流プログラムの研修報告会**
本学學生、教員、学外者に向けた成果報告会を開催することでプログラムの意義と重要性を共有した。参加學生のレポートはインターネット上で公開されている。
- ジョイントセミナーの成果報告**
連携機関と共同開催されたジョイントセミナーは、連携機関や本学ホームページで情報公開されている。また、學生が執筆したものも含め、多くの共著論文が学術雑誌に採択されている。

■ 特記すべき事項等

- 連携地域および本学において學生参加型のジョイントセミナーを開催した。文化的、社会的背景の異なる研究者が集まる国際的な場での発表やディスカッションは、學生にとって新たな知見を得るのみならず、新たな問題の捉え方や解決方法を見出す貴重な機会となっている。
- 10月に本学5つ目のユニバーシティ・ハウス(国際混住型學生寄宿舎)がオープンした。国立大学では最大規模で、日本人と外国人留學生が混住(男女はフロアで区分)することにより、国際感覚を身に付けるとともに異文化に対する理解を深めることが可能。安価な宿舎の提供によりロシア人留學生数の増加が期待できる。